

LifeKeeper for Linux v9.5.0
Single Server Protection for Linux v9.5.0
テクニカルアップデートインフォメーション

第2版



目次

| | |
|---|---|
| はじめに | 4 |
| LifeKeeper for Linux v9.5.0の新機能・機能変更 | 4 |
| ■ CLIの機能強化 | 4 |
| ■ Oracle PDBのサポート | 4 |
| ■ SAP HANA Recovery Kit の製品同梱 | 4 |
| ■ オンラインでのDataKeeperのミラーサイズ変更 | 4 |
| LifeKeeper for Linux v9.5.0の新規サポートOS・ソフトウェア・環境 | 4 |
| 修正された重要な不具合 | 5 |
| Single Server Protection での相違点 | 5 |
| Single Server Protection v9.5.0の新規サポートOS・ソフトウェア | 5 |
| CLIの機能強化について | 6 |
| お問い合わせ | 6 |
| 免責事項 | 7 |
| 著作権 | 7 |

改訂履歴

| 日付 | バージョン | 変更情報 |
|-----------|-------|---|
| 2020/3/2 | 001 | 新規作成 |
| 2020/7/16 | 002 | 以下のサポートOSの追加 <ul style="list-style-type: none">● Red Hat Enterprise Linux7.8● Oracle Linux 7.8● CentOS 7.8● SUSE Linux Enterprise Server 12 SP5 以下のサポート対象ソフトウェアの追加 <ul style="list-style-type: none">● EDB Postgres Advanced Server 12.0サポートの追加 以下のサポート対象仮想環境の追加 <ul style="list-style-type: none">● vSphere 7.0 |

1. はじめに

本文書ではLifeKeeper for Linux v9.5.0 / Single Server Protection for Linux v9.5.0の新機能や機能変更、また、重要なバグ修正に関する概要をまとめたものです。それらに関する詳細な情報につきましては、リリースノートやオンラインマニュアルをご確認いただくか、ご契約の製品サポートにお問い合わせください。

2. LifeKeeper for Linux v9.5.0の新機能・機能変更

■CLIの機能強化

これまでGUI操作のみ可能だったリソース作成、削除などの機能がCLIで操作出来るようになりました。詳しくは後述します。

■Oracle PDBのサポート

LifeKeeperでOracle PDBを保護できるようになりました。本機能は既存のOracle ARKに追加される機能で、Oracle ARKのライセンスのみでご利用いただけます。詳しくは、オンラインドキュメントをご参照ください。

■SAP HANA Recovery Kit の製品同梱

これまでGeneric ARKとして提供してきたSAP HANA Recovery Kitが、製品同梱になりました。

■オンラインでのDataKeeperのミラーサイズ変更

これまでではオフライン（リソースの状態がOut of Service）の場合のみDataKeeperのミラーサイズの変更が出来ましたが、ベースデバイスが論理ボリュームの場合に限りオンライン（リソースの状態がIn Service）でDataKeeperのミラーサイズの変更が出来るようになりました。

3. LifeKeeper for Linux v9.5.0の新規サポートOS・ソフトウェア・環境

新規にサポートされたOS、ソフトウェア、環境は以下の通りです。

[サポートOSの追加]

- Red Hat Enterprise Linux 7.8, 8.1
- Oracle Linux 7.8, 8.0, 8.1
- CentOS 7.8, 8.0, 8.1
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP5

[サポート対象ソフトウェアの追加]

- PostgreSQL 12
- MariaDB 10.4
- EDB Postgres Advanced Server 12.0

以下の環境はv9.4.1にて追加サポートされています。

- Symfoware 12.4

[サポート対象仮想環境の追加]

- vSphere 7.0

[サポート環境の追加]

- Azure Multi AZ

- SAP on RHEL8

[その他新規サポート]

以下の構成はv9.4.1にて追加サポートされています。

- AWS VPC Peering Connections with AWS Transit Gateway

4. 修正された重要な不具合

より詳細な不具合に関する情報は、リリースノートでご確認ください。ここではお客様にとって有意と思われる不具合修正情報についてご案内します。

| Bug id | Description |
|--------|---|
| #764 | データレプリケーションリソースを並行して障害回復出来るようにしました。 |
| #2315 | logrotateの設定に問題があり、一部の環境でlogrotate後のログが紛失する問題を修正しました。 |
| #2320 | 文字コードの設定によって、DB2リソースが生成できない問題を修正しました。 |

5. Single Server Protection での相違点

今回のv9.5.0リリースにおいて、大きな変更点は「CLIの機能強化」、「Oracle PDB」の2点となります。「CLIの機能強化」に関してはSingle Server Protectionではサポートされません。詳しくは、オンラインドキュメントをご参照ください。

6. Single Server Protection v9.5.0の新規サポートOS・ソフトウェア

新規にサポートされたOS、環境は以下の通りです。

[サポートOSの追加]

- Red Hat Enterprise Linux 8.1
- Oracle Linux 8.0, 8.1
- CentOS 8.0, 8.1

[サポート対象ソフトウェアの追加]

- PostgreSQL 12
- MariaDB 10.4

以下の環境はv9.4.1にて追加サポートされています。

- Symfoware 12.4

[サポート環境の追加]

- SAP on RHEL8

7. CLIの機能強化について

LifeKeeperは以前より、充実したGUIを提供してまいりましたが、コマンドラインによるシステム構築や運用には完全には対応できておりませんでした。そのような状況を改善すべく、LifeKeeper for Linux 9.5.0よりCLIによる構築、運用をサポートするための拡張を施しております。

今回の実装では主に以下3つを実現します。

1. CLIによる構築、運用等の操作

例として、以下のような操作が可能となります。

- コミュニケーションパスの作成、削除
- リソースの作成、拡張、削除
- 依存関係の作成、削除
- DataKeeperのミラーの停止、再開

2. CLIによるパラメータの変更

例として、以下のような操作が可能となります。

- スイッチバックの設定
- フェイルオーバーのON/OFF
- 仮想IPリソースのアドレスをソースアドレスとして利用するかの設定

3. 既存システムのクローン作成

すでに作成済みのLifeKeeperクラスタからコミュニケーションパス及びリソース情報をexportし、他のLifeKeeperクラスタにimportする機能が実装されました。本機能をご利用いただくことで、既存システムとまったく同じ構成、設定のクローンを作成することが可能です。

このexport/import機能は、作成したシステムの量産やテスト環境から本番環境のデプロイを容易に行うための有効な手段となります。

注意事項

- Single Server Protectionでは、上記の新機能はサポートされません。
- SAP、MQ、DB2など、上記の新機能が未サポートのRecovery Kitがいくつか存在します。詳しくはリリースノートやオンラインドキュメントをご参照ください。
- LifeKeeper本体のインストール作業はサポートされておりません。上記のCLI機能はLifeKeeper本体のインストール後にご利用いただけます。

8. お問い合わせ

本ドキュメントの記載内容について、疑問点等がある場合は弊社サポート窓口までお問い合わせください。なお、お問い合わせの一次窓口が弊社ではない場合があります。サポート証書にてサポート窓口を確認のうえ、適切な窓口にお問い合わせください。

9. 免責事項

- 本書に記載された情報は予告なしに変更、削除される場合があります。最新のものをご確認ください。
- 本書に記載された情報は、全て慎重に作成され、記載されていますが、本書をもって、その妥当性や正確性についていかなる種類の保証をするものではありません。
- 本書に含まれた誤りに起因して、本書の利用者に生じた損害については、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- 第三者による本書の記載事項の変更、削除、ホームページ及び本書等に対する不正なアクセス、その他第三者の行為により本書の利用者に応じた一切の損害について、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- システム障害などの原因によりメールフォームからのお問い合わせが届かず、または延着する場合がありますので、あらかじめご了承ください。お問い合わせの不着及び延着に関し、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。

10. 著作権

本書に記載されているコンテンツ(情報・資料・画像等種類を問わず)に関する知的財産権は、サイオステクノロジー株式会社に帰属します。その全部、一部を問わず、サイオステクノロジー株式会社の許可なく本書を複製、転用、公衆への送信、販売、翻案その他の二次利用をすることはいずれも禁止されます。またコンテンツの変更、削除についても一切認められません。本書では、製品名、ロゴなど、他社が保有する商標もしくは登録商標を使用しています。